

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<そら豆観察！> 5歳児クラス

- ・4歳児クラス（つき組）の時からそら豆を育てていました。5歳児クラス（そら組）に進級し、収穫を楽しみに育てられるように、じょうろ、支柱、シャベル、霧吹き、記録用マジック、メジャーを用意しました。しかし、困ったことが起きました。

- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり



5歳児保育室から目につきやすいところにプランターを置き、毎日保育者と一緒にお世話をしました。そら豆の葉に囲まれて観察を楽しみました。葉にアブラムシがついたのでシャベルや手で取っていましたが、なかなか減りませんでした。子どもたちの「大きなそら豆ができるように」という願いから、虫が集まる黄色い紙を置いてみたり、石鹸スプレーを撒いたりして、アブラムシがとれるように工夫しました。



そら豆のさやを見つけると、年下のクラスの子も観察に来ました。毎日さやが大きくなるのが嬉しくて、自分の親指や、手のひらに合わせて測ったり、メジャーで測ったりするを楽しみました。

そら豆を収穫し、さやの大きさがいろいろであることや、さやの内側や豆の感触、におい、大きさを感じて楽しみました。



子どもたちは、皮の中身がふわふわしていることや、むきたてのお豆はつるつるしているのに、時間がたつと固くなることを不思議がっていました。時間がたつと、水分が抜けて「乾燥するから」と推測し、「水に入れたら膨らむかな？」と試してみました。同じにはならないけれど柔らかくなると感じていました。



毎日そら豆プランターの前でそら組の子どもたちが様々な探究を楽しんでいるのを見ていた年下のクラスの子どもたちが興味をもち、見せてもらったり、一緒に触らせてもらったりしていました。

4. 振り返り<振り返りによって得た保育者の気づき>

つき組の時から育てていたそら豆に、始めは関心が薄かったが、回遊型にプランターを置くことで興味をもつきっかけになっていました。毎日継続して関わることで変化に気づき友達と話し合ったり、困った時には考えたり工夫したりしながら、身近な自然とのふれあいを楽しむことができました。その中で、子どもたちの疑問や困ったことに答えられるように保育者自身も一緒に考えたり調べたりして探究を楽しむことが大切であると感じました。